平成３０年度岐阜県統計グラフコンクール審査結果について

○主　催　　岐阜県

○後　援　　岐阜新聞社、岐阜放送、岐阜県教育委員会、岐阜県小中学校教育研究会

○目的等　　本県における統計知識の普及と統計の表現技術の研さんを目的に、統計グラフ全国コンクール推薦作品の選考を兼ねて毎年開催

○グラフの課題及び評価のポイント

統計グラフ全国コンクールに準じる

○応募作品数の推移

（単位：作品）

	第1部（小 1･2）	第2部（小 3･4）	第3部（小 5･6）	第4部（中学）	第5部（高校・一般）	ﾊﾟｿｺﾝ統計ｸﾞﾗﾌの部	計
平成28年度	284	311	207	133	1	54	990
平成29年度	250	367	194	124	4	47	986
平成30年度	270	295	173	97	2	60	897

○入賞区分内訳

（単位：作品）

	岐阜県知事賞	岐阜新聞社・岐阜放送賞	入選	佳作	奨励賞	合計
第１部	1	1	3	5	10	20
第２部	1	1	3	5	10	20
第３部	1	1	3	5	10	20
第４部	1	1	3	3	5	13
第５部	-	1	-	-	-	1
パソコン統計グラフの部	1	1	3	3	5	13
合　計	5	6	15	21	40	87

○今回入賞した作品のうち、上位入賞の２４作品を第６６回統計グラフ全国コンクール（主催：公益財団法人統計情報研究開発センター、後援：総務省など）に出品します。

※統計グラフ全国コンクールへの出品作品は各部門の岐阜県知事賞、岐阜新聞社・岐阜放送賞、入選となったものですが、第４部のみ、入選３点のうち１点を出品します。

平成３０年度岐阜県統計グラフコンクール作品評

総　　評

岐阜県統計グラフコンクールは今年度で６６回目を迎えました。その歴史は古く、審査を行いながら、本コンクールが岐阜県の伝統として深く根付いていることを、一つ一つの作品から強く感じました。

今年度の応募作品からも、工夫ある効果的なレイアウトやイラスト、グラフを考えていることや、限られた用紙の中に込めた作者の主張や熱意、そして、その感性や努力を強く感じることができました。

さて、本県の作品は全国コンクールにおいても毎年高い評価を得ており、その質の高さが全国からも注目されています。昨年度も、本県の入賞作品２６点を出品し、４名の方が受賞（入選１名、佳作３名）されました。これもひとえに、関係者の皆様が、統計知識の普及と統計の表現技術の研鑽を目的とした本事業の趣旨をご理解いただき、積極的に啓発・指導をしていただいた成果であると実感しております。

今年度は県内各地から８９７点の作品が寄せられました。題材としては、身近な日常生活や学校生活に関わるものから環境や福祉に関わるものまで、幅広いテーマの作品が見られました。

全体的には、題材の多様性で、応募者の学年、年齢に応じた適切なグラフ表現がなされており、時間をかけて丁寧に取り組んだことがうかがわれる作品が数多くありました。グラフの色や配列の仕方を工夫するだけでなく、目盛りのとり方やそれぞれのグラフの特性を生かすことなど、グラフ作成の基本を大切にしようとすることがどの作品からも伝わりました。

作品の各部ごとの概要は次のとおりです。

＜第１部＞

低学年らしい発想で、学校生活の中で関心や興味を持ったこと、普段から知りたいと思っていることを調べまとめた「学校大すきナンバー１」「がっこうのもちものはおもたいよ！」など学校に関する作品が多くありました。

＜第２部＞

学校で学習した地域・社会のことや身近なことを題材にした「知って気付いた『もったいない』」「どこが暑いかな？涼しい場所を捜そう！」など学習したことや感じたことを深めようとする作品が多くありました。

＜第３部＞

自分たちの生活や近い将来をテーマに「私たちの意識はどう変わったか？」「私たちの悩み聞いて！」など小学生がもつ素朴で身近な疑問や悩みに対して、子ど

もだけでなく、大人にとっても大変興味のある作品が多くありました。

＜第４部＞

身近な問題だけでなく、社会情勢を踏まえたテーマが多く、中でも「集中豪雨その時あなたは？」「広めよう!ジェネリック医薬品～自分のために・日本のために～」などデータの収集から整理・分析までを丁寧に行いながら、アンケート調査も併用して、統計的に価値のあるまとめをしている作品が多くありました。

＜第５部＞

今日的課題をテーマとして扱い、データをよりわかりやすくグラフにまとめ配置や構成、色使いにいたるまで、作者の主張がメッセージとして受け取れる作品に仕上げられていました。

＜パソコン統計グラフの部＞

防災をテーマとした作品や働き方改革について問題提起している作品など日常生活に起こり得る事象を身近なものとしてとらえられるよう、パソコン機能を有効に活用して、見やすく人目を引く工夫をしたり、データで示す「統計」の良さが具体化された作品となっていました。

最後に、より主張したいことが明確になり、よりよい作品にするために気を付けるとよいことについて何点か示します。これらのことに留意し、来年度も優れた作品が多数出品されることを期待します。

【グラフの選択・作成について】

・発達の段階を踏まえ、同学年の児童生徒がグラフを見てわかるようなグラフの選択をしましょう。（小学校低学年で絵グラフや棒グラフ、高学年で折線グラフや円グラフなど、学校での学習時期や発達段階から適切なグラフを選択して作品にしましょう。）

・グラフを立体で表す時には、グラフの基準の位置や目盛り、角度によるズレなどに気を付け、正確に表しましょう。

【構成・レイアウトについて】

・主張したいことが伝わるタイトルを設定し、題材をより深く追求するために、設問にストーリー性を持たせたり、矢印や配置によってつながりを持たせたりすることで、主張がより明確になりやすいです。

・他の人にみてもらうことを考え、文字やグラフの大きさ、形、色使い、配置などにも気を付けましょう。

【その他】

・第三者が作成した著作物の使用は、法律で禁止されています。（ホームページに掲載されているイラストや写真、グラフをそのまま転載した例がありました。）